

6月7日
錦絵の伝統を守り続けて
錦絵師・木下大門さんの講演会



本町出身の錦絵師・木下大門さんの講演会とサイン会が6月7日、道の駅「摩周温泉」で行われました。

同駅で6月末まで開催された木下さんの作品展「現代相撲錦絵展」に合わせて行われたものです。錦絵とは、大相撲の人気力士などを伝統的な浮世絵の技法で描いたもの。木下さんは、弟子屈高校を卒業後、上京。イラストレーターをしながら独学で錦絵を習得し、現在も活躍中です。木下さんは「江戸時代から続く錦絵を守りたい」と話していました。

6月5日
災害時に飲み物を提供
小売酒部会が町と防災協定締結



町内の酒販店で作る弟子屈小売酒部会(角藤敏会長)と町が、災害時における救援物資の提供に関する協定を結びました。

締結式は6月5日、役場で行われ、同部会の右近一雄さん立ち会いのもと、角藤会長と徳永町長が協定書を交わしました。

同部会は以前から、摩周観光文化センターに飲料の自動販売機を設置。災害時、同センターが避難所となることから今回、災害救援型自動販売機に入れ替えました。災害発生などの非常時に自動販売機内の飲料を無償で提供するほか、避難所に優先的に飲料水を提供します。角藤会長は「お世話になっている地域の役に立てたらうれしい」と話していました。

5月25日

各校で思いやりある取り組み
いじめ撲滅サミットを開催



第2回弟子屈町いじめ撲滅サミットが5月25日、役場委員会室で行われました。

児童・生徒が、それぞれの学校でのいじめ撲滅に関する取り組みを発表し合うもので、町内小学校6校・中学校2校から10人が参加。各校でポスターや標語をつくっているなどの取り組みが発表されました。また、町教育委員会の水上俊司指導室長から、最近のいじめの実態について説明があり、子どもたちはあらためていじめ撲滅を誓いました。

カメラスケッチ



このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにかかけます。お気軽にご連絡ください。



まちづくり政策課政策調整係 ☎482-2913(課直通)

6月8日

楽しい登山のために
パークボランティアが藻琴山登山道を整備



川湯エコミュージアムセンターを拠点として自然保護活動などを行っている、摩周・屈斜路パークボランティア(金井秀明会長)の皆さんが6月8日、藻琴山登山道の整備を行いました。

土砂崩れの起きやすい箇所がある山頂周辺や、希少な植物が生育している屏風岩周辺で、立ち入りの注意喚起をするロープ張りを実施。夏シーズンの山開きでもあったこの日は、濃霧と小雨の中でしたが、多くの登山客でにぎわっていました。ボランティアの皆さんは、作業を進めながら「今年も事故のない藻琴山であってほしい」と話していました。

6月7日～8日

自転車長距離走で弟子屈を満喫
グランfond摩周に110人が参加



第2回グランfond摩周(同実行委員会主催)が6月7・8の両日、町内などを会場に行われました。

7日には、津別峠を登るタイムトライアルやライディングスクール、交流会を開催。8日には、順位やタイムなどを競わずに自転車での長距離走を楽しみました。摩周湖・屈斜路湖・美幌峠・標茶町の多和らなどを巡るロング(163キロ)・ミドル(115キロ)・ショート(57キロ)の3コースに、道内外から集まった約110人が参加し、雄大な道東の風景を楽しみながらゴールを目指しました。

5月30日～6月1日

広々とした牧場で草をはむ
900草原に牛が入牧



5月30日から6月1日の日程で、酪農家で育てられた若牛が、家畜車で運ばれ、広大な町営牧場・900草原へ放たれました。今年は、1,179頭(6月1日現在)の牛が集まりました。

多くの牛は牛舎で育てられているため、最初は慣れない牧場に戸惑っていますが、広々とした草地に放たれるとすぐに元気な姿で駆け回っていました。10月末まで栄養ある牧草を食べてたくましく成長し、畜主のもとへ戻ります。

5月25日

中南米に思いをはせる
てしかが国際交流会が講演会を開催



てしかが国際交流会(池上清子会長)主催の講演会「ビバ・ラテンアメリカ」が5月25日、川湯ビレッジで開催されました。

同会が2011年から行う国際交流イベント「もっと外国を知ろう」プログラムの一環で、今回で15回目。25人が参加しました。美留和にお住まいの三木明さんが、かつて滞在していたメキシコやブラジルなど中南米の文化や暮らしについて語り、参加者の皆さんは興味深く聴き入っていました。

次回は9月中旬ころ、フィリピンをテーマに開催予定です。

6月22日

エコミュージアムセンターの自然ふれあい行事
イソツツジのお花畑と鉄道軌道跡を散策



川湯エコミュージアムセンター主催の自然ふれあい行事「阿寒国立公園指定80周年記念・つつじヶ原と安田鉄道軌道跡探勝会」が6月22日に行われ、町内外から15人が参加しました。

安田鉄道軌道跡では、明治時代に行われた硫黄山採掘に関する歴史をスタッフが解説。実際に軌道の名残を見ました。さらに、周辺の自然環境を見ることで、硫黄山の影響の大きさや重要性を再確認しました。

硫黄山麓に広がる日本一のイソツツジ群生やハイマツ、ガンコウランを採勝した後は、期間限定で運行中の馬車に乗り、自分たちが歩いてきた道を振り返りました。

6月15日

また一つ歴史と思い出を重ねて
昭栄小学校で最後の運動会



今年度で96年の歴史に幕を下ろし閉校することが決まっている昭栄小学校(高田孔平校長)で6月15日「昭栄小学校閉校記念南弟子屈連合大運動会」が開催されました。

同校の運動会はこれまで、学校と地域との共催で開催。子どもたちの学習成果の披露の場であるとともに、地域の交流の場でもありました。今回は最後の運動会。雨天が続く中、この日だけは青空がのぞき、気温も上昇。全校児童5人に加え、多くの地域の方たちが趣向を凝らした数々の競技に参加し、最後の運動会を楽しみました。

6月4日

育てるのが楽しみ
果樹の苗木を無料配布



苗木の無料配布会が6月4日、役場前と川湯支所前で行われました。

町内の緑化推進のために毎年行われています。配布されたのはカーラントというスグリ一種の苗木で、両会場で赤・白・黒の3種類、計120本が用意されました。寒さに強く丈夫で、実も楽しめるそうです。

会場では緑の募金も行われ、集まった方々が募金に協力していました。

6月3日

緑あふれるまちを目指して
植樹祭で170本の木を植える



弟子屈町植樹祭～森林は自然の貯金箱～が6月3日、摩周3丁目の町民農園横で行われました。

緑のふるさとづくりを目的に、町と弟子屈町緑化推進委員会(会長・徳永町長)が主催して毎年行っています。今年は、卒業記念植樹として参加した弟子屈小学校の6年生ほか、自治会関係者など約100人が参加。摩周建設事業協会(近藤明会長)から同推進委員会に寄贈された樹木14本を含め、エゾヤマザクラとアカエゾマツ計170本を植樹しました。